

教育事業別報告書

事業名	子どもを支援する青年ボランティア養成研修
趣 旨	独立行政法人青少年教育振興機構（以下「機構」という。）のボランティア（以下「法人ボランティア」という。）として一定レベルの資質を確保するとともに、青少年教育におけるボランティア活動を推進し、その活動機会の拡充を図るため、法人ボランティアの養成を行う。
期 間	平成25年 7月13日（土）～14日（日）
募集人員 （募集結果）	国立青少年教育振興機構でボランティアを希望する者30名 （参加者46名：高校生19名、専門学校生3名、大学生22名、社会人2名）
① 事業の特色	
<p>この事業は、主に当所で活躍する「ボランティアの養成」を目的に、当所の教材・教具を十分活用し、自信を持って活動できる青少年教育施設ボランティアを養成する研修である。</p> <p>研修内容は「こんな活動しています～自然の家でのボランティア活動」「青少年教育の理解」「青少年教育施設でのボランティア活動の意義」「青少年教育と青少年教育施設の役割」「第3回ファミリーミーティングプログラム運営補助」「もしものときの救命救急法」の講義、実習を行い、青少年教育施設の理解や青少年教育施設におけるボランティア活動の理解及び活動スキルを学んだ。特に「第3回ファミリーミーティングプログラム運営補助」では、同時に行われていたファミリーミーティングでのイワナつかみ、イワナ焼きのプログラム運営補助として参加者と関わることができた。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【新山所長の講義】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【イワナつかみの運営補助】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【もしものときの救命救急法】</p> </div> </div>	
② 事業の成果と課題	
<p><事業の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアを実際に行う経験ができたことで、すぐにボランティアとして活動できる自信と知識・技術が身についた。 ・ 高校生や大学生のボランティアの養成に力を入れることで、登録したボランティアが、その後の教育事業にボランティアとして活動した。今後、今回の研修を足がかりにして、自然体験活動指導者など、他の教育事業にも参加する可能性が大きいと考えられる。 <p><事業の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期により高校生、大学生のボランティアが試験等により教育事業のボランティアができない時がある。社会人のボランティアを養成するためにも、開催時期を十分に検討する必要がある。 	
③ その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当所のボランティアとして自信を持って活動ができるよう、当所の知識や技能などが習得できるスキルアップの事業などを設定していく。 ・ さらに地元の高校生に積極的に声をかけボランティアの層を厚くしていく。 	